

工場見学会の概要

株式会社アナリスト、マスコミの皆様を対象に以下の工場見学会を実施いたしました。

期日：平成14年1月29日(火)

見学場所：西方工場・F P工場・栃木工場

当社出席者：代表取締役社長、常務取締役生産本部長、取締役技術本部長、取締役栃木工場長、西方工場長、F P工場長

見学会テーマ：独自技術「高速ヒートサイクル成形」量産動向と今後の採用見通し
自動車部品、食品容器他 最新の受注量産状況

見学会概要

- ・西方工場・・・ノートPC塗装、組立工程、家電製品、自動車部品等の新規受注量産
- ・F P工場・・・CVS向け米飯中食容器他
- ・独自技術説明(技術本部長)・・・高速ヒートサイクル成形法、製品サンプルと質疑応答 (1)
- ・栃木工場・・・高速ヒートサイクル成形による情報通信機器量産、組立インジェクションフィルター成形量産
- ・当社概況説明(社長)と総括質疑応答 (2)

(1) 技術説明における質疑応答の概要

Q. 高速ヒートサイクル成形の熱源は？

A. 蒸気を使っています

Q. 蒸気が(キャビティ内で)凝縮しないか？ 離型剤を使用して支障無いか？

A. 全く支障有りません。

Q. 高速ヒートサイクル成形は独自技術か？

A. 独自技術で特許を申請しています。

Q. 金型表面温度は何度くらいで効果出るのか？

A. 120 ~ 130 で充分効果が出ます。

Q. 歩留まりはどの位か。

A. 歩留まりは、普通の射出成形と全く変わりません。

Q. 金型製作日数、及びショット数、耐久性はどうか？

A. 製作日数は通常成形の金型と変わりません。耐久性も熱ひずみ等に配慮し、現在10数万回経過した量産型も変化無く、通常金型と同じ寿命と考えています。

Q. 西方・F P両工場が他社と差別化されている所は？

A. 西方工場は、高品位な特殊塗装を大きな製品面積に可能で、国内でも有数と思われます。

また、多工程の組立技術、治工具製作等生産技術力にも高い技術力をもっております。
F P工場は、クリーンルーム工場で、射出成形と熱成形を両方手がけているのは全国でも稀少と思われます。当社の熱成形部門はシートからの一貫生産にてスクラップの回収ができ、コスト的に有利だけでなく、環境負荷低減にも貢献しています。また、印刷技術も優れています。

Q. 印刷技術が優れているとは？

A. 円すい型食品容器に、円筒形のゴム版で印刷するため、周速の違いからインクのにじみが起こります。この防止に技術力を要します。

(2) 総括質疑応答の概要>

- Q. 技術ライセンスは十数社の引合い有りと聞いていますが、その後の状況は？
- A. 具体的案件進行中。但し、技術ライセンスは、他社特許との関係をクリアにすべく三井化学殿と共同で対処しています。近々、本件に就いて正式にプレス発表できると思います。
- Q. 日立製作所向け売上比率が高いと思われませんがどの位ですか？
- A. 5年前売上比率40%を占めていた時期もありましたが、現在は25%前後で、SONY殿向けとほぼ同比率です。ちなみに、食品容器の売上比率は5%程度でしたが現在は15%に成長しております。
- Q. 食品容器の顧客は？
- A. 岸本産業殿、四国加工機殿、藤森工業殿が現在の主要顧客です。お客様が自社消費される他、主要なエンドユーザーは森永乳業殿、明治乳業殿、グリコ殿、カゴメ殿になります。
- Q. 高速ヒートサイクル成形は、大変素晴らしい技術と思いますが売上の現状はどうでしょうか。
- A. 高速ヒートサイクル成形は今期順調に普及、受注拡大しております。但し、国内ならびに国際的経済環境から、既存製品の減少も一段と早まっており、新規受注でその売上減を補い、全体でやや増ペースを維持しております。
- Q. 前期と比較し、今期利益増の理由は何ですか？
- A. 今期は、動きの速いIT製品分野で受注数を増やすことにより、ひとつひとつの製品受注金額の月次変動に左右されない高操業度化を計っております。高位安定した月次操業は固定費負担の大きいメーカーにとって大きな利益増となります。
- Q. 高速ヒートサイクル成形の売上比率は？
- A. 平成12年度下期においては概算10%であった売上比率は、現在は30%程度に高まってきています。現在立上げ中の新製品も高速ヒートサイクル成形がらみが多く、本年の5月頃には更に高まる見込みで、以前ご説明したペースよりかなり早まっております。当社は独自技術による明確な受注理由で存在価値を高め、利益を守り伸ばしていく方針です。
- Q. 西方工場の大型成形機に高速ヒートサイクル設備を増設する理由は、目先の受注がまかないきれない為でしょうか？
- A. 今まで高速ヒートサイクル成形は栃木工場がメインでしたが、大型成形品需要にお応えする為現在、西方工場のみならず草加工場でも設備増設が進行中です。
- Q. 高速ヒートサイクル成形対応可能な成形機は何台ですか？
- A. 設備進行中のものを含め、4月頃には全社で10数台が対応機となる予定です。
- Q. 8台分高速ヒートサイクル成形機増設ということは、設備投資額はいくらですか？
- A. 直接的な投資金額は数千円で済みますが、他に熱源供給設備、付帯工事などが多少発生します。エンジニアリングの部分も重要な技術ノウハウとなっています。